

# 資料1【参考】

## 令和3（2021）年人口動向 コロナ禍における傾向

### 1. 外国人人口内訳について（資料1 P.1）

- ・平成27年から、年に100人程度ずつ増加していた外国人人口が減少した
- ・令和2年以降、中国国籍の外国人が年々減っており、令和3年は4番目となった
- ・一方、ベトナム国籍の外国人は継続して増加しており、1番多いフィリピン国籍と並んだ

|    | H28                  | H29                  | H30                  | R1                   | R2                   | R3                   |
|----|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 全体 | 38カ国<br>1,059人       | 38カ国<br>1,145人       | 40カ国<br>1,260人       | 41カ国<br>1,410人       | 40カ国<br>1,479人       | 41カ国<br>1,428人       |
| 1  | フィリピン<br>256人(24.1%) | フィリピン<br>268人(23.4%) | フィリピン<br>290人(23.0%) | フィリピン<br>321人(22.8%) | フィリピン<br>342人(23.1%) | フィリピン<br>333人(23.3%) |
| 2  | 中国<br>244人(23.0%)    | 中国<br>252人(22.0%)    | 中国<br>270人(21.4%)    | 中国<br>273人(19.4%)    | ベトナム<br>302人(20.4%)  | ベトナム<br>333人(23.3%)  |
| 3  | ブラジル<br>177人(16.7%)  | ブラジル<br>175人(15.2%)  | ベトナム<br>194人(15.3%)  | ベトナム<br>266人(18.9%)  | 中国<br>256人(17.3%)    | ブラジル<br>202人(14.1%)  |
| 4  | ベトナム<br>100人(9.4%)   | ベトナム<br>144人(12.5%)  | ブラジル<br>173人(13.7%)  | ブラジル<br>191人(13.5%)  | ブラジル<br>201人(13.6%)  | 中国<br>177人(12.4%)    |

【参考】国籍別外国人内訳（12月末現在）

### 2. 社会移動について（資料1 P.2）

- ・令和3年は、コロナ禍前と比較し、移動総数が少なかった
- 転出入総数 R1→5,183人（転入：2,493人、転出：2,513人）  
R3→4,758人（転入：2,324人、転出：2,434人）

### 3. 年代別移動について（資料1 P.5）

- ・30代の移動は、令和3年に転出超過に転じたが、内訳として、国内移動では転入超過（14人増）、国外移動が転出超過（32人減）であった
- 外国籍住民の海外転出増加が理由と推測（R1→2人増、R3→41人減）

### 4. 県外移動について（資料1 P.9～11）

- ・令和2年から、東京都への転出超過数は減少している
- ・エリア別に見ると、東海3県や北関東への転出超過が増えている
- これまで東京都に転出していた層が、東海3県や北関東に転出していると推測
- （10代後半～20代の社会移動 R1→東京：109人減、東海3県：40人増、北関東：5人増  
R3→東京：71人減、東海3県：47人減、北関東：7人減）

### 5. 県内移動について（資料1 P.13）

- ・静岡市は、これまで連続して転出超過であったが、令和2年以降、転入超過となっている
- 主な要因は20代後半から30代前半の転入超過（R1→6人減、R3→14人増）

### 6. 市内地区別移動について（資料1 P.17）

- ・初倉地区は、これまで社会増減（転居・転入・転出）で継続して増加していたが、令和3年は減少に転じた
- これは、初倉地区の外国籍住民の転入が減少したことが理由と推測（R1→214人、R3→125人）